

桜を守る街国立

4

動機

僕の住んでいる国立の自慢である桜について多くの人に知ってもらうことで春に咲く満開の桜をたくさんの人に見に来てもらいたいと思ったので、桜について調べた。

国立の桜の現状

春に美しく花を咲かせる桜だが昭和8年今の天皇陛下の生誕を祝って植えられたため、樹齢が80年をこえているものがほとんどである。そのため毎年のお花見などで根が腐りまわたり、またトラックによって枝が折れ折られているものも多い。

桜守活動

平成12年から傷ついた桜の木を少しでも回復させようとボランティアの方々と小・中学生が桜の保護活動に取り組んでいる。

①小・中学生の活動内容 (実際に僕も小学生の時活動しました)

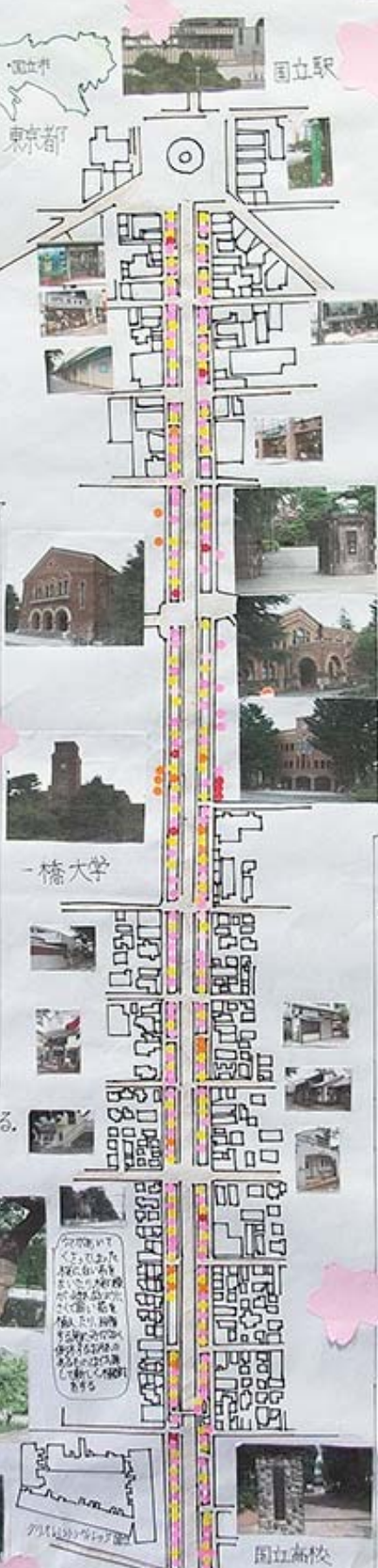
- ・ポスター作り
桜の大切さをみんなに伝えるポスターを作る。
- ・作業
実際に弱っている桜の周りの小石を拾ったり、桜の根元にムラサキノ汁の種をまいたり、土壌を改善するために



とても大きい肥料をまく。
(この臭いのおかげで桜守の活動をずっと覚えてる)

②ボランティアの方々の活動内容

- ・EMポカシ泥の作製(年2~3回)
とても臭い肥料が、EMとは有用微生物群という事で微生物の力を借りて桜の元気を取り戻している。
- ・EM泥の植栽日復木への散布(年7回~8回)
- ・桜に関する勉強会や講習会(年2~3回)
- ・生垣・ロープの修理
看板の取り付け
コスカシバの除去
ムラサキノ汁の植栽・種取り、みこばえ
風吹の伐採、木の枝木・除草
植栽調査(随時)
- ・ゴミ集約や桜フェスタの様々なお花見期間中の活動
- ・夏場の水やり等



調査方法

- ①駅から国立高校まで(約1100m) 国立の街を歩いて1本1本桜、イチョウなどの木の名称を調べる。
- ②国立桜守活動代表 大谷さんにインタビューする。

調査日
7/6, 7/8, 8/4, 8/11

大記

ソメイヨシノ(125本)
現在桜の代表ともいえるソメイヨシノはオシマヅクラとエドヒガンの交雑種。花つきがよく成長が早い。

アマヅクラ(17本)
ソメイヨシノに比べ寿命が長く木になるのが遅く、町の手では高樹との間合いが狭く花も咲かせることがある。花びらに苦味が出る。

オシマヅクラ(7本)
伊豆大崎までの伊豆群島の原産で若葉は食用が可能な樹を大葉菜として使われている。

(その他の木) ウコメ(1本) ヤエバニシタ(8本)
バニシタ(2本) カムザン(2本)
オオカミヅクラ(1本) シタレ(1本)
(桜以外の街路樹) イチョウ(99本) マツ(20本) モミジ

実際に活動してみても

根が露みかかっているところに葉や木酢液をぬることで根を活性化させたり、タマリョウキを植えることで人が入らないようにして土をよわめかしたりしている。

他にもくさったり折れたりしてしまった看板を立て直しや雑草抜きなどの作業も行っている。毎年美しく咲きほころぶ桜並木を保つため様々な工夫がなされていることに気づいた。

今までただ歩いて見ているだけだったが、これからはこの活動に参加していきたい。

雑草抜き(下)



きのこのふき(左)



国立高校

縮尺
1:1375